山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第269集

# 六（む）ツ長（おさ）遺跡

- 山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書 -

２０１１．３

山梨県教育委員会
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

# 六（む）ツ長（おさ）遺跡

- 山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書 -

２０１１．３

山梨県教育委員会
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

# 六ツ長遺跡のあらまし

六ツ長遺跡は、笛吹市御坂町上黒駒字六ツ長にあります。この場所は、山梨リニア実験線を建設することになったため、試掘調査を行ったところ、新たに遺跡が発見されました。そこで、字名から六ツ長遺跡として、平成２１年に本格的な発掘調査が行われました。ここでは、六ツ長遺跡発掘調査のあらましをご紹介したいと思います。

調査着手前

六ツ長遺跡は、御坂山塊から甲府盆地東部へ流れる金川左岸の標高５５８ｍを測る、段丘の上にあります。

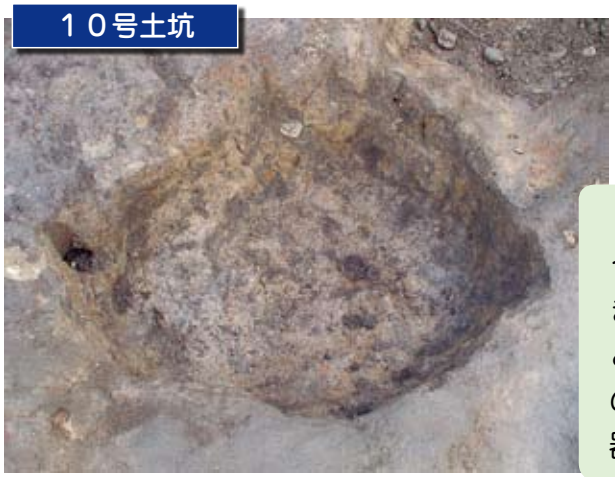
対岸の丘の上には、縄文時代の中頃（今から約4500年前）に作られた「黒駒土偶」が発見されたことで有名な御坂中丸遺跡があります。

御坂中丸遺跡も、平成２１・２２年に山梨リニア実験線建設のためその一部が発掘調査されています。

六ツ長遺跡のある笛吹市御坂町は、古代の役所があったと考えられており、金川沿いに御坂峠を越え、富士河口湖・御殿場方面を結ぶ道があり、古代においては東海道分岐路の官道（甲斐路）として成立しました。六ツ長遺跡のすぐ近くに、古代の官道があったと考えられます。

六ツ長遺跡調査風景

１０号土坑



六ツ長遺跡からは、土坑（どこう）と呼ばれる穴が１９基検出されました。この土坑の性格の詳しいことははっきりしませんが、左の写真の１０号土坑からは、黒曜石製の石器が出土しました。

六ツ長遺跡では土坑のほかに、右の写真のような溝状の遺構が２条みつかりました。どちらも南北方向に検出されましたが、南端で立ち上がっています。１号溝状遺構からは、古墳時代前期（今から約1700年前）の甕の破片が出土しています。２号溝状遺構からは、縄文時代から平安時代までの土器の破片が出土しています。また、溝のまわりにみえる穴は、前述した土坑で、溝状遺構と何らかの関係があるかもしれません。

１号（右）、２号（左）溝状遺構

２号溝状遺構断面図

１号溝状遺構断面図

上の写真は、２号溝状遺構の断面です。溝状遺構には１０～５０cmを越える大型の石が堆積し、これらを取り除いて調査するのは大変でした。この遺構は、大きな石が堆積していることから、人が溝として利用した後、自然の河となって水が流れた可能性があります。

上の写真は、１号溝状遺構の断面です。溝状遺構には黒褐色土が堆積し、２号溝状遺構とは対照的です。しかし、本遺跡の立地や遺構が南端で立ち上がり、10～100cmほどの礫がまとまって検出されていることを考えると、湧水に関わる溝状遺構の可能性があります。湧水は現在でも周辺でみられ、民家で利用されています。遺物は古墳時代前期の土器片が出土しています。

六ツ長遺跡全景

左の写真は、六ツ長遺跡調査区を真上から撮った航空写真です。写真にみえる白線から左側は、撹乱により遺構、遺物は確認されませんでした。

しかし、古墳時代前期の溝状遺構や遺物が出土したことは、いままで、不明な点が多かった六ツ長遺跡の性格の一端が解明されたこととなり、大きな成果といえます。

# 序　文

本報告書は山梨リニア実験線建設に伴い実施した、笛吹市御坂町上黒駒に位置する六ツ長遺跡の調査成果をまとめた報告書です。

六ツ長遺跡は平成19年度に行われた試掘調査の結果、古墳時代の遺構、遺物が確認されたため、新たに登録・周知された埋蔵文化財包蔵地です。今回報告する本調査は平成21年度に行いました。調査によって、古墳時代の１号溝状遺構とこれと並行する時期は確定できない２号溝状遺構があり、この周辺にいくつかの土坑を検出しています。遺物は縄文、古墳、平安の各時代の遺物が出土しています。

この１号溝状遺構については、遺跡の立地が河岸段丘の崖下に近く、現在でも遺跡周辺に湧水が存在することや、遺構の立ち上がる南側で10～100㎝大の礫がまとまって検出されていることを考慮すると、湧水に関わる遺構の可能性も考えられます。また、２号溝状遺構はその断面形態が一様でなく、覆土に砂粒や大型の円礫が堆積し、出土した土器が磨耗していた点を考慮すると、湧水を利用した河道としての性格が考えられます。

この２条の溝状遺構の周辺にいくつかの土坑が見つかっていますが、その性格については、柵などの可能性もありますが、確定できません。

今後、この六ツ長遺跡周辺を広く調査する時の資料として、また地域の歴史を明らかにする資料として少しでも貢献できれば幸いに思います。

最後に、調査にあたってご協力を頂いた富士急行株式会社、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構をはじめ、関係機関、関係者に厚く御礼を申し上げます。

２０１１年３月

山梨県埋蔵文化財センター
所　長　　小　野　正　文

# 例　言

1．本書は、山梨県笛吹市御坂町上黒駒地内に所在する六ツ長遺跡の発掘調査報告書である。
2．調査は山梨リニア実験線建設に伴うもので、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構からの委託を山梨県教育委員会が受け、山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
3．遺跡の所在地は、山梨県笛吹市御坂町上黒駒字六ツ長3423－２外である。
4．発掘調査期間は、平成21年６月11日～７月16日、室内調査は基礎的整理が、平成22年１月５日～２月25日まで、本格的整理が、平成22年７月１日～７月30日となる。
5．報告書の編集および執筆は、三田村美彦が行った。遺構の写真は、三田村・小澤美和子が、遺物の写真は三田村が撮影した。
6．室内調査の場所は、山梨県埋蔵文化財センター（山梨県甲府市下曽根町923）である。
7．発掘調査に係る図面や写真などの記録類や出土品は、山梨県埋蔵文化財センター（山梨県甲府市下曽根町923）に保管してある。
8．発掘調査に係る調整機関は、山梨県教育委員会学術文化財課埋蔵文化財担当である。
9．金属製品に係る保存処理は、小澤が行った。
10．発掘調査に係る基準杭、標高杭及びグリッド杭の設置は株式会社一ノ瀬調査設計に委託した。
11．発掘調査に係る航空写真および測量は、(株)東京航業研究所に委託した。
12．調査にあたり、次の組織や方々にご指導及びご協力いただいた。記して謝意を表したい。
富士急行株式会社、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、笛吹市教育委員会、大月市教育委員会、伊藤修二、望月和幸、稲垣自由（敬称略、順不同）

# 凡　例

1．掲載した遺構図面の縮尺は原則として下記のとおりである。
遺跡関連図　　発掘調査範囲図　1/1.000　遺跡位置図　1/10.000　グリッド設定図　1/200
　　基本層序　1/50
遺構関連図　　平面図　1/200　1/50　1/30　断面図・土層図　1/50　1/30
2．遺物実測図の縮尺は下記のとおりである。
土器　1/3　　石器　2/3　金属製品　1/2
3．遺構平面図の網目は次のとおりである。
□ 撹乱
4．基本層序及び、遺構覆土の色調は「農林水産省農林水産技術会議事務局監修2001『新版　標準土色帳』」を参考とした。
5．遺物分布図の表記は次のとおりである。
● 土器
6．遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。
7．遺構図・全体図などに示した方位は世界測地系座標による真北である。

# 本文目次

あらまし
序文
例言
凡例
目次
第Ⅰ章　調査の経緯と経過
第１節　調査に至る経緯・・・・・・・・・・ 1
第２節　調査の目的と課題・・・・・・・・・ 1
第３節　発掘調査の経過・・・・・・・・・・ 2
第４節　室内調査等の経過・・・・・・・・・ 2
第５節　調査組織・・・・・・・・・・・・・ 2
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境
第1節　地理的環境 ・・・・・・・・・・・・ 2
第2節　歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・ 2
第Ⅲ章　調査の方法 ・・・・・・・・・・・・ 4
第１節　調査の方法・・・・・・・・・・・・ 4
第２節　層序・・・・・・・・・・・・・・・ 4
第Ⅳ章　検出された遺構と遺物・・・・・・・ 5
第１節　溝状遺構・・・・・・・・・・・・・ 5
第２節　土坑・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第Ⅴ章　総括・・・・・・・・・・・・・・・ 6

写真図版 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
抄録

## 挿図目次

第１図　六ツ長遺跡発掘調査範囲図・・・・・・・・・ 1
第２図　周辺の遺跡地図・・・・・・・・・・・・・・ 3
第３図　六ツ長遺跡グリッド設定図及び遺構全体図・・ 5
第４図　１・２号溝状遺構平・断面図・・・・・・・・ 8
第５図　１・２号溝状遺構遺物分布図・・・・・・・・ 9
第６図　土坑平・断面図・・・・・・・・・・・・・・ 10
第７図　遺構出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・ 11

## 表目次

第１表　遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
第２表　土坑一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第３表　土器・土師器観察表・・・・・・・・・・・・ 7
第４表　石器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第５表　金属製品観察表・・・・・・・・・・・・・・ 7

## 写真図版目次

図版１　六ツ長遺跡全景、１・２号溝状遺構全景　・・ 15
図版２　１・２号溝状遺構断面、１～８号土坑　・・・ 16
図版３　９～18号土坑、調査風景　・・・・・・・・・ 17
図版４　六ツ長遺跡出土遺物　・・・・・・・・・・・ 18

# 第Ⅰ章　調査の経緯と経過

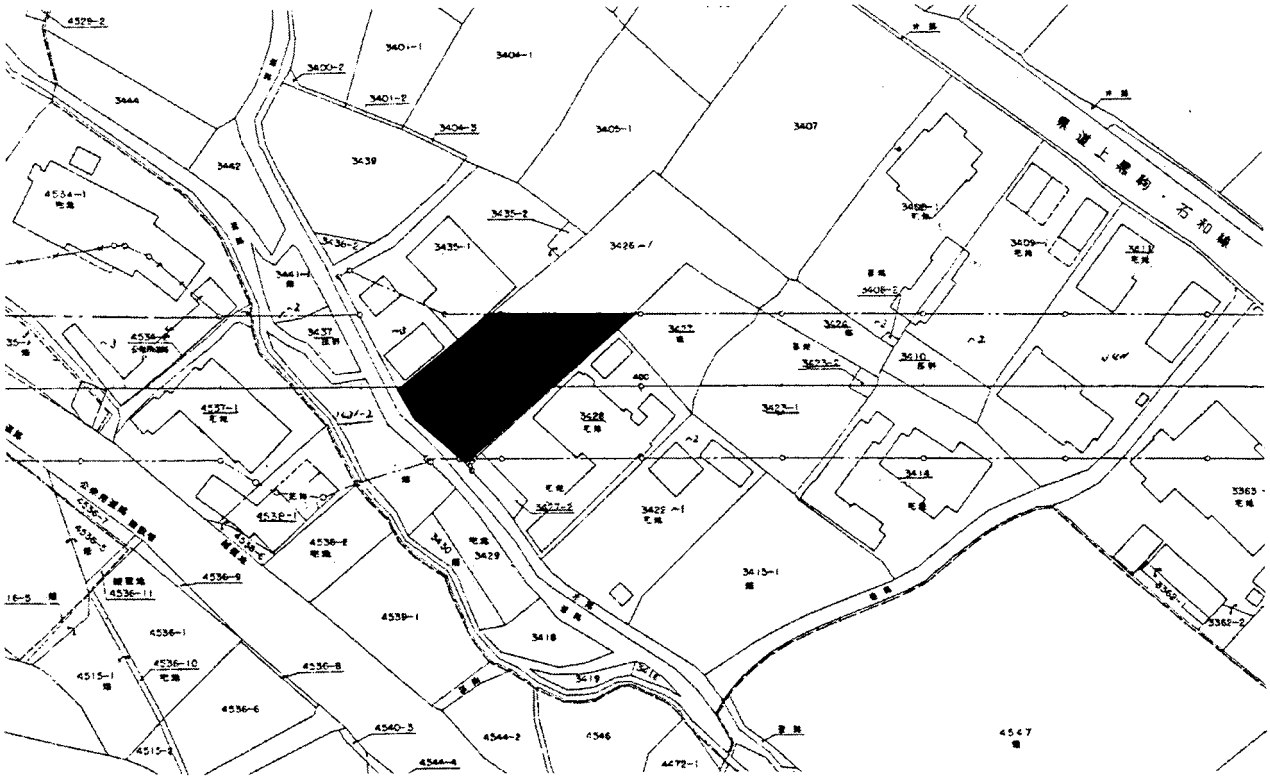
## 第１節　調査に至る経緯（第１図　発掘調査範囲図）

平成19年９月18日から12月18日の間、笛吹市御坂町から同市八代町にかけて建設される山梨リニア実験線建設区間内で埋蔵文化財の有無を確認するため、試掘調査が実施された。その結果、笛吹市御坂町上黒駒字六ツ長地内で２条の溝状遺構と縄文、古墳、平安時代にかけての遺物が確認されたため、新たに六ツ長遺跡として登録され、本調査を行うこととなった。平成21年４月27日には、事業主体者である独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構と学術文化財課、埋蔵文化財センターの３者が本調査範囲の確認やその期間、調査工程を現地で協議した。これに基づき、本調査を６月11日から開始し、７月16日に終了した。これらに要する発掘調査と報告書刊行を含めた整理作業の経費は独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が負担した。以上の六ツ長遺跡の発掘調査に係る法的手続きは以下のとおりである。

平成21年６月11日、文化財保護法第99条に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第194号）。平成21年7月16日、遺失物法第13条に基づく埋蔵文化財の発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出し、笛吹警察署長への通知を依頼（教埋文第317号）。平成21年７月27日、山梨県教育委員会教育長へ発掘調査結果報告書を提出（教埋文第337号）、平成22年３月５日山梨県教育委員会教育長へ実績報告書を提出（教埋文第881号）。

## 第２節　調査の目的と課題

調査に至る経緯にも記したとおり六ツ長遺跡は、縄文・古墳・平安時代にかけての新たに発見された遺跡であるため、本格的な調査が行われておらず、その性格は不明な点が多かった。今回の調査は部分的ではあるが、山梨リニア実験線建設範囲内で本格的な調査を行うことができるため、その一端を解明することが課題となり、今回の調査の主たる目的となる。



第１図　六ツ長遺跡発掘調査範囲図

### 第３節　発掘調査の経過

調査は小型重機による表土剥ぎを６月11日から行い、12日にはプレハブ等発掘機材の設置を行う。６月15日からは、作業員を投入して遺構確認を開始した。６月17日には重機による表土剥ぎが終了。遺構確認と併行して、試掘調査で確認された溝状遺構の調査に着手する。６月23日には基準杭及びベンチマークの設置を行い、土坑など確認された遺構の精査へ着手する。７月８日には確認された遺構が完掘し、遺物の取り上げが完了したため、７月９日には航空測量をかねた写真撮影を行う。７月13日には遺構の実測や残務整理を終え、７月14～16日には小型重機による調査区の埋め戻しを行い、調査終了。

### 第４節　室内調査等の経過

室内調査のうち、遺物の水洗、註記、接合、復元、図面整理など基礎的整理作業は平成22年１月５日～２月25日まで行った。遺物実測トレース、遺構トレース、図版作成、写真図版作成など本格的整理は、平成22年７月１日～７月30日まで行い、原稿執筆は平成22年８月２日～８月30日まで行った。報告書の入稿は平成22年11月８日で、刊行は平成23年３月25日となった。

### 第５節　調査組織

調査主体　山梨県教育委員会

調査機関　山梨県埋蔵文化財センター

2007年（平成19年）試掘調査担当：田口明子・正木季洋

2009年（平成21年）発掘調査担当：三田村美彦・小澤美和子

作業員：小菅春江・小林としみ・鮫田勝男・中込　榊・広瀬ありさ・宮下真紀子・望月　明

2009年（平成21年）基礎的整理担当：三田村美彦・小澤美和子

作業員：山本三重子

2010年（平成22年）本格的整理担当：三田村美彦・石井　明

作業員：森　奈奈

## 第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

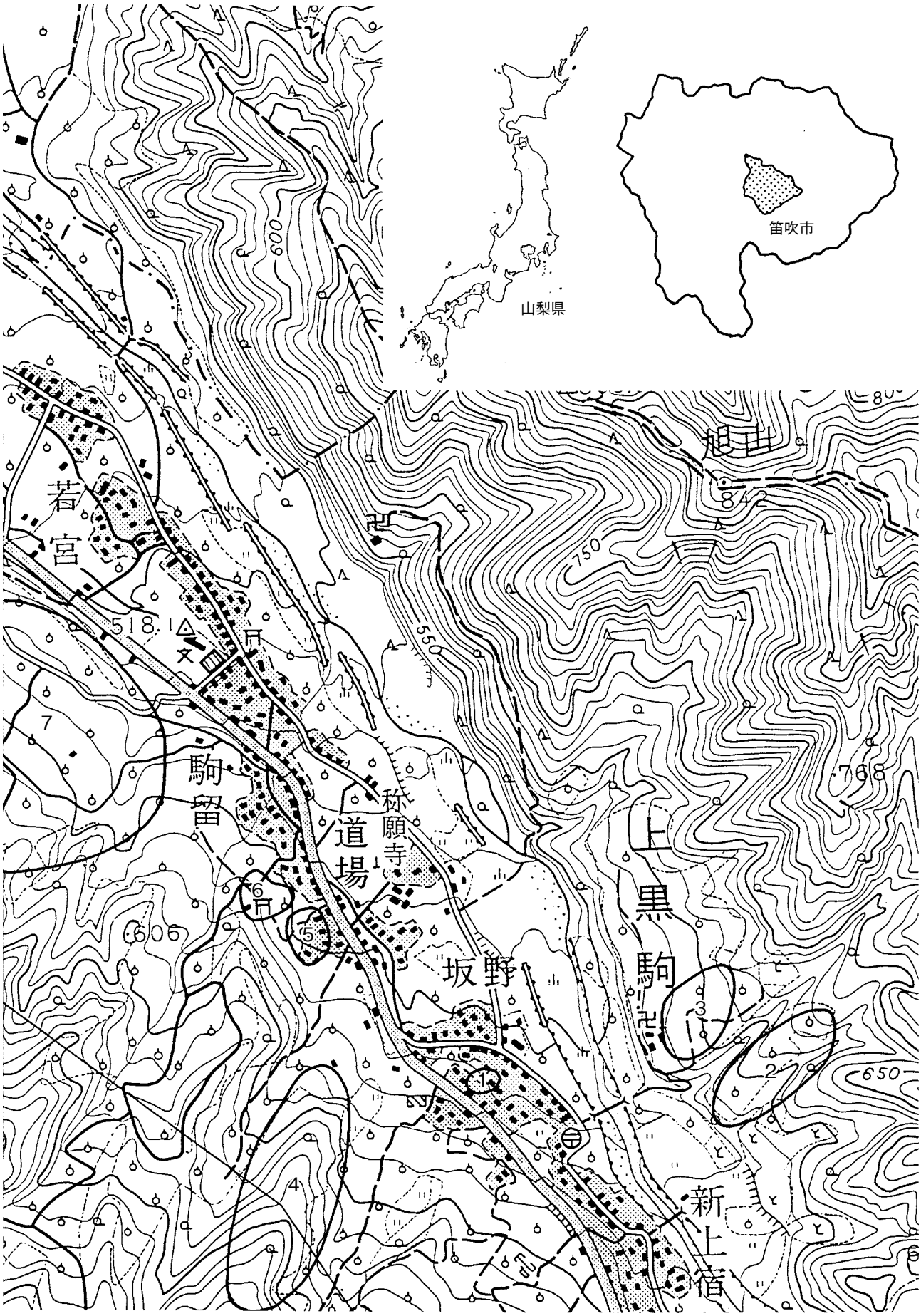
### 第１節　地理的環境

六ツ長遺跡は笛吹市御坂町上黒駒字六ツ長に所在する。御坂山塊からは、多くの河川が甲府盆地へ南流し、笛吹川に合流する。これらの河川は御坂山塊を南北方向に開析し、その端部を中心に、扇状地形や河岸段丘、小丘を形成しており、多くの遺跡が分布する地域である。六ツ長遺跡も御坂山塊から甲府盆地東部へ南流する金川左岸の、標高558ｍ前後を測る河岸段丘上に位置する。

### 第２節　歴史的環境（第２図　周辺の遺跡地図）

六ツ長遺跡（１）の所在する笛吹市御坂町は、平成16年10月12日に近隣の町村と合併し、旧町名は御坂町である。

御坂町は、聖徳太子の「甲斐の黒駒」伝説で知られ同様の地名があることから当時、牧が存在したという説がある。加えて、町内に国衙という地名があることから、古代甲斐国の中心的官衙が存在したと考えられている。また、国衙と東海道をつなぐ甲斐路（御坂道）が存在し、金川沿いに御坂峠を越え富士河口湖・御殿場方面を結び、古代においては官道として成立した。本遺跡もその立地から甲斐路の周辺に存在した可能性は高い。このような歴史的風土から笛吹市御坂町には多くの遺跡が分布しており、先史から古代にかけて、人々の営みが盛んで




第２図　周辺の遺跡地図

あったことは想像に難くない。以下、六ツ長遺跡周辺の遺跡を概観したい。

本遺跡の対岸、達沢山の南西山麓の緩斜面に立地する中丸遺跡（２）は、大正６年に発見された「黒駒の土偶」の出土地として有名で、後に東京国立博物館に寄贈された。その特異な顔面の表現から、日本を代表する土偶として海外でも紹介されている。なお、中丸遺跡は山梨リニア実験線路線内で、境川町にも同名の遺跡が存在することから、便宜的に御坂中丸遺跡と称することもある。上の山遺跡（３）、駒留小丸遺跡（６）は縄文時代の散布地、黒駒氏屋敷跡（４）は室町～戦国時代にかけての屋敷跡であるが本格的調査は行われていない。西馬鞭遺跡（５）は、平成８～12年にかけ、山梨県埋蔵文化財センターで本格的調査が行われている。西馬鞭遺跡は、縄文・古墳・平安時代の包含層と平安時代の祭祀的色彩の強い遺構が検出されている。桂野遺跡（７）は、山梨の縄文時代の遺跡を代表する遺跡のひとつであり、現在に至るまで、甲斐丘陵考古学研究会、旧御坂町教育委員会、山梨県埋蔵文化財センターなどの組織が調査を行っており、縄文時代中期を中心とした学術的にも造形的にも優れた遺物が多数出土し、周辺地域における中核的な集落遺跡のひとつとして捉えることができよう。

**第１表　遺跡一覧表**

| | 遺　跡　名 | 種別 | 時　　代 | | 遺　跡　名 | 種別 | 時　　代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 六ツ長遺跡 | 集落跡 | 縄文・古墳・平安 | 4 | 黒駒氏屋敷跡遺跡 | 城館跡 | 中世 |
| 2 | 中丸遺跡 | 集落跡 | 縄文 | 5 | 西馬鞭遺跡 | 散布地 | 縄文・平安 |
| 3 | 上の山遺跡 | 散布地 | 縄文 | 6 | 駒留小丸遺跡 | 散布地 | 縄文 |
| 7 | 桂野遺跡 | 集落跡 | 縄文 | | | | |

**参考文献**


谷口一夫　1959　「黒駒発見の中期縄文式土器」『富士国立公園博物館研究報告』第２号　富士国立公園博物館

御坂町　1971　『御坂町史』

田代　孝ほか　1979　「桂野平石遺跡」『御坂町の埋蔵文化財』甲斐丘陵考古学研究会・御坂町教育委員会

山梨県　1998　「資料編１」『山梨県史』

山梨県教育委員会ほか　2000　『桂野遺跡・西馬鞭遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第172集

御坂町教育委員会ほか　2004　『桂野遺跡』


# 第Ⅲ章　調査の方法

## 第１節　調査の方法（第３図　グリッド設定図及び遺構全体図）

試掘調査の結果から約60cm堆積している表土除去を小型重機（0.15㎡）を用いて行った。その後、人力による遺構確認、遺構精査を行った。遺構や出土遺物の記録は主として平板測量を用いた。また、調査区全域の航空写真と測量を委託事業として行った。グリッドは世界測地系座標に基づき５ｍで設定した。

## 第２節　層序（第４図　１・２号溝状遺構平・断面図）

今回の調査は面積が260㎡と狭く調査区西側は撹乱されていたため、遺跡の保存状態が最も良好だった調査区北側の１・２号溝状遺構断面図を基本層序として提示したい。

Ⅰ層　10YR3/2黒褐色土層　粘性、しまり有り。５～30mm大の褐色粒子を混入。表土層である。

Ⅱ層　10YR5/8黄褐色土層　粘性、しまり有り。１～５mm大の黄褐色砂粒子を大量に混入。遺構確認面となる。

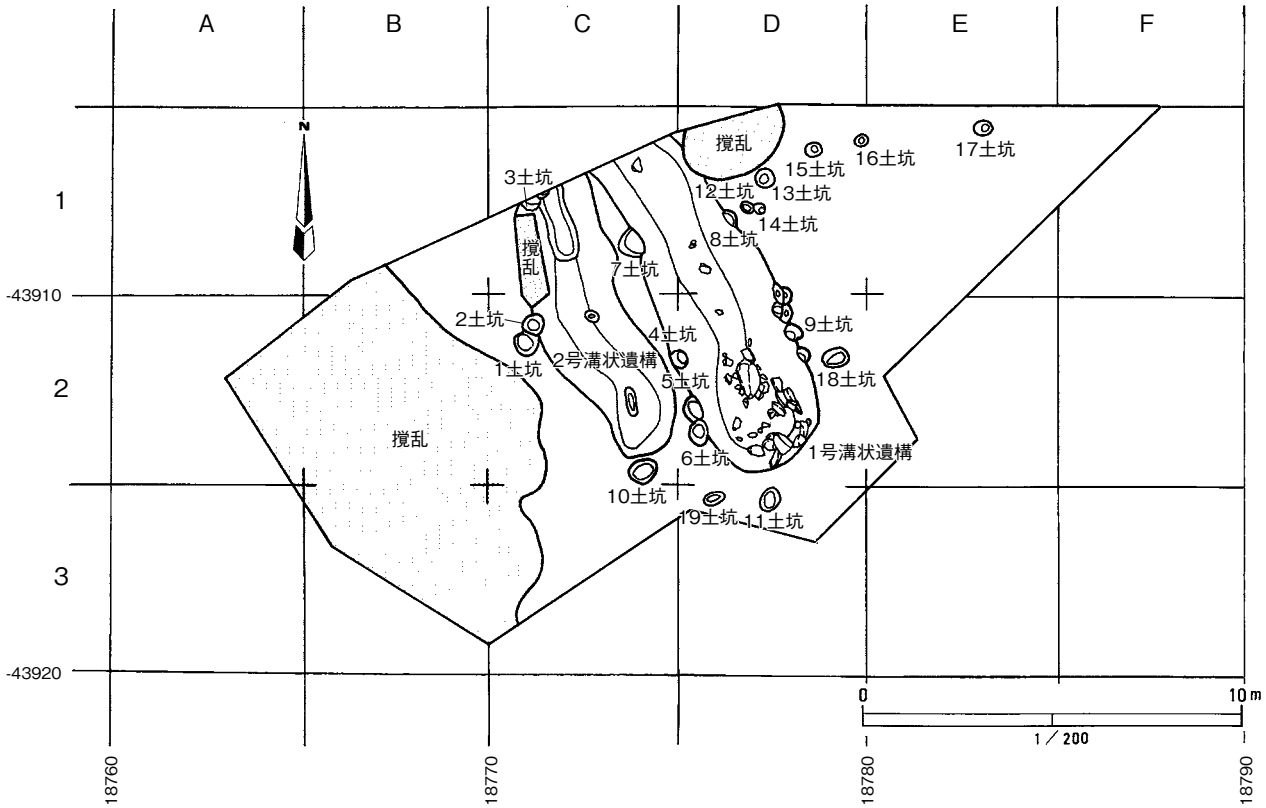
# 第Ⅳ章　検出された遺構と遺物

## 第１節　溝状遺構（第４図　１・２号溝状遺構平・断面図）

１号溝状遺構は今回の調査で最も規模の大きい遺構で、C・D－１・２グリッドで検出された。長さ９ｍ、最大幅3.3ｍ、最小幅2.3ｍを測る不正楕円を呈し、南側はD－２グリッドで立ち上がっているのに対し、北側は、調査区外となり判然としない。断面はすり鉢状を呈し、主に黒褐色の土が堆積している。溝の上端では４～９号土坑が検出されているが、本遺構に関わるものか判然としない。なお、４号土坑は覆土の観察から本遺構を切って構築されており、本遺構と時期差のある土坑も存在すると考えられる。また、D－２グリッド周辺では下端周辺で10～100cm大の円礫が大量に出土している。これらは周辺の地形から、本遺跡周辺に存在したと思われる旧河道や土石流などで流れ込んだと推測され、人為的なものではないと考えられる。出土遺物は、古墳時代前期に比定される在地系の台付甕（第７図）が主体となるが、大部分がD－２グリッド周辺の覆土上層から出土する傾向が看取される（第５図）。

２号溝状遺構は、C－１・２グリッドから検出された。長さ7.5ｍ、最大幅2.5ｍ、最小幅1.7ｍを測り、蛇行するような平面形となる。南側はC－２グリッドで立ち上がっているのに対し、北側は1号溝状遺構同様、調査区外となり判然としない。断面は不定形で、覆土には黒褐色の砂粒や0.1～0.5ｍほどの円礫が堆積していた。溝の上端では１～３号土坑が検出されているが、本遺構に関わるものか判然としない。なお、３号土坑は覆土の観察から本遺構を切って構築されている。

出土遺物は少なく縄文時代から平安時代にかけての土器が、溝状遺構全体から散在的に出土している傾向が看取される（第５図）。なお、これら２号溝状遺構から出土した土器は、その表面が摩滅しているものが多い。また、時期は判然としないが、角棒状の金属製品（第７図７）も出土している。




第３図　六ツ長遺跡グリッド設定図及び遺構全体図

### 第２節　土坑（第６図　土坑平・断面図）

土坑は、19基検出されている。このうち、縄文時代に帰属すると思われる黒曜石製石器（第７図）を出土した10号土坑以外は出土遺物がなく、他の時期は不明である。ただ1号溝状遺構を切って構築された４号土坑、２号溝状遺構を切って構築された３号土坑など、覆土の観察によって遺構の新旧関係が判る土坑もあることから、これらの土坑にもある程度の時期幅があるものと思われる。各々の土坑の出土位置、形態、深度などの数値は第２表を参照されたい。

## 第Ⅴ章　総括

ここでは、検出された遺構や遺物を通じて、遺構の時期や性格、そこから導かれる六ツ長遺跡の性格について検討し総括としたい。

第Ⅰ章でも記したとおり、六ツ長遺跡は山梨リニア実験線建設に伴い新たに発見された遺跡である。その本格的調査の結果、溝状遺構２条と19基の土坑が検出された。このうち、１号溝状遺構は出土した在地系の台付甕などから古墳時代前期に帰属すると思われるが、その性格は判然としない。ただ、遺跡の立地が河岸段丘の崖下に近く、現在でも遺跡周辺に湧水が存在する点や、遺構の立ち上がる南側で10～100㎝大の礫がまとまって検出されていることを考慮すると、湧水に関わる遺構の可能性も考えられる。２号溝状遺構はその断面形態が一様でなく、平面形態が蛇行するような点、覆土に砂粒や大型の円礫が堆積し、出土した土器が磨耗していた点を考慮すると、湧水を利用した河道としての性格が考えられる。その帰属時期は、縄文・平安時代の土器が出土しているため判然としないが、その範囲内に帰属するものと思われる。

土坑は19基検出されたが、貯蔵穴や土坑墓を想起させる形態、規模のものは無い。土坑の規模から考慮すると、溝状遺構に伴う施設としての性格が考えられる。また、土坑の配置をみると、１・４・18号土坑の間隔が東西約４ｍと等しく直線で並ぶため、柵列としての柱穴の可能性も指摘できるが、規模が小さく確定できない（第３図）。その時期も不明な点が多いが、10号土坑が縄文時代の可能性を有し、４号土坑が重複する古墳時代前期に帰属する１号溝状遺構より新しいことから、検出された土坑に時期差があることを指摘しておきたい。

以上、今回の調査を総括してきたが、本遺跡周辺の金川左岸の河岸段丘上は周知の埋蔵文化財が少なく、不明な点が多かった。しかし、今回の六ツ長遺跡の調査で新たな知見が加わると同時に、古墳時代の遺構や縄文、古墳、平安時代の遺物が検出されたことは、周辺にも同時期の遺跡がある可能性を有することとなり、意義深いものである。また今後の課題として、今回検出された遺構の性格をより明確にするべく、金川沿いに存在していた古代官道（甲斐路）の周辺に存在する本遺跡の立地条件や、周辺地域の遺跡との検討を進めていきたい。

**参考文献**

御坂町　1971　『御坂町史』
山梨県　1999　「資料編２」『山梨県史』

## 第２表　土坑一覧表

| 図　版 | 遺構名 | 位　置 | 平面形 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 時期 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | １号土坑 | C―２ | 不正円形 | 70 | 58 | 26 | 不明 | |
| 6 | ２号土坑 | C―２ | 不正円形 | 61 | 48 | 26 | 不明 | |
| 6 | ３号土坑 | C―１ | 楕円形？ | 25 | 35 | 36 | 不明 | |
| 6 | ４号土坑 | C・D―２ | 卵形 | 47 | 39 | 25 | 不明 | |
| 6 | ５号土坑 | C―１ | 不正円形 | 48 | 30 | 8 | 不明 | |
| 6 | ６号土坑 | D―２ | 不正円形 | 45 | 44 | 17 | 不明 | |
| 6 | ７号土坑 | C―１ | 楕円形 | 68 | 56 | 20 | 不明 | |
| 6 | ８号土坑 | D―１ | 楕円形？ | 48 | 30 | 8 | 不明 | |
| 6 | ９号土坑 | D―２ | 円形 | 45 | 44 | 17 | 不明 | |
| 6 | 10号土坑 | C―２ | 不正円形 | 75 | 65 | 28 | 縄文か | 黒曜石製石器出土 |
| 6 | 11号土坑 | D―３ | 不正円形 | 62 | 51 | 25 | 不明 | |
| 6 | 12号土坑 | D―１ | 円形 | 30 | 31 | 16 | 不明 | |
| 6 | 13号土坑 | D―１ | 円形 | 46 | 44 | 27 | 不明 | |
| 6 | 14号土坑 | D―１ | 円形 | 29 | 29 | 16 | 不明 | |
| 6 | 15号土坑 | D―１ | 円形 | 36 | 37 | 52 | 不明 | |
| 6 | 16号土坑 | D―１ | 円形 | 29 | 30 | 18 | 不明 | |
| 6 | 17号土坑 | E―１ | 円形 | 41 | 37 | 28 | 不明 | |
| 6 | 18号土坑 | D―２ | 不正円形 | 72 | 48 | 13 | 不明 | |
| 6 | 19号土坑 | D―３ | 楕円形 | 60 | 34 | 17 | 不明 | |

## 第３表　土器・土師器観察表（（　）は推定復元値、雲＝雲母、石＝石英、長＝長石、赤＝赤色粒子）

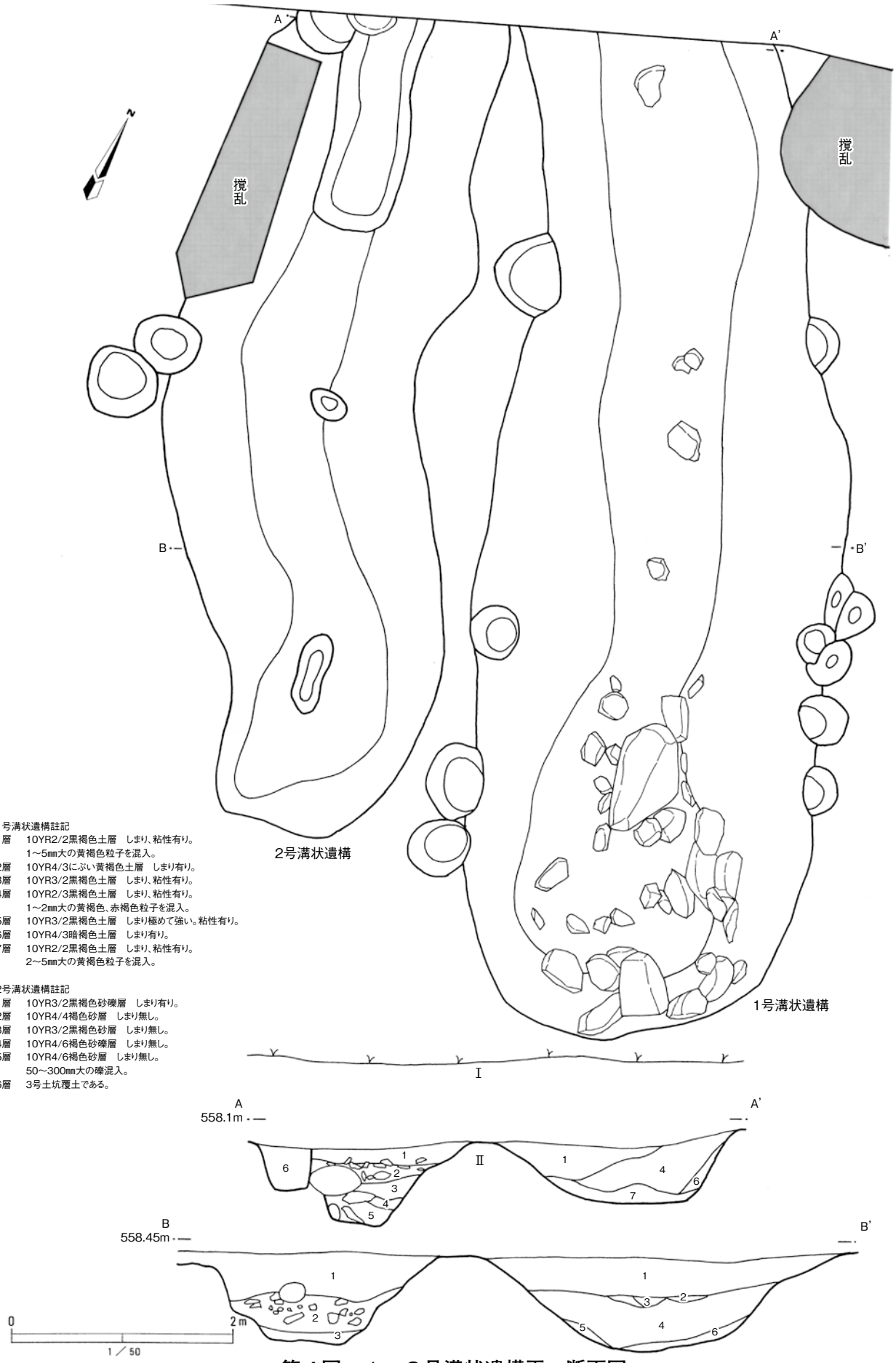
| 図版 | No. | 地点 | 種別 | 時期 | 器種 | 口/底/高（cm） | 施文・整形技法 | 色調・胎土 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 1 | 1号溝状遺構 | 土師器 | 古墳前 | 甕 | (16.0) /―/― | 口縁部、内外面とも、ハケメ | 黄褐色･長・ | |
| 7 | 2 | 1号溝状遺構 | 土師器 | 古墳前 | 甕 | (15.8) /―/― | 口縁部、内外面とも、ハケメ、内面頸部輪積痕 | 黄褐色･長・石 | |
| 7 | 3 | 1号溝状遺構 | 土師器 | 古墳前 | 甕 | (13.5) /―/― | 口縁部、内外面とも、ハケメ | 黄褐色･長・石 | |
| 7 | 4 | 1号溝状遺構 | 土師器 | 古墳前 | 甕 | (16.0) /―/― | 口唇部にキザミが巡る、内外面とも、ハケメ | 黄褐色･雲・石 | |
| 7 | 5 | 1号溝状遺構 | 土師器 | 古墳前 | 甕 | (13.4) /―/― | 口唇部にキザミが巡る、内外面とも、ハケメ | 黄褐色･雲・石・長 | |
| 7 | 6 | 1号溝状遺構 | 土師器 | 古墳前 | 甕 | ―/5.3/― | 台付甕の台部、内外面とも、ハケメ | 赤褐色・雲・長・赤 | |
| 7 | 1 | 2号溝状遺構 | 縄文 | 縄文前 | 深鉢 | ―/―/― | 胴部破片、単節縄文施文 | 褐色・雲・石・長 | 前期中葉釈迦堂Z3式か |
| 7 | 2 | 2号溝状遺構 | 縄文 | 縄文前 | 深鉢 | ―/―/― | 胴部破片、無節縄文 | 褐色・雲・石・長・赤 | 前期中葉釈迦堂Z3式か |
| 7 | 3 | 2号溝状遺構 | 縄文 | 縄文中 | 深鉢 | ―/―/― | 胴部破片、併行沈線を横、斜位に施文 | 褐色・雲・長 | 中期初頭五領ケ台式か |
| 7 | 4 | 2号溝状遺構 | 縄文 | 縄文中 | 深鉢 | ―/―/― | 胴部破片、結節沈線 | 赤褐色・雲・長 | 中期中葉狢沢式 |
| 7 | 5 | 2号溝状遺構 | 土師器 | 平安 | 坏 | (5.7) /―/― | 内外面と磨耗著しく、整形不明 | 橙褐色・雲・長 | ９C後半 |
| 7 | 6 | 2号溝状遺構 | 土師器 | 平安 | 坏か | ―/ (6.0) /― | 底部外面糸切痕 | 明褐色・雲・長 | 10C後半か |

## 第４表　石器観察表

| 図版 | No. | 地点 | 分類 | 時代 | 長/幅/厚（cm） | 重さ（g） | 石材 | 色調 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 1 | 10号土坑 | 掻器か | 縄文 | 2.7/1.8/1.0 | 6 | 黒曜石 | 黒色 | 基部欠損 |

## 第５表　金属製品観察表

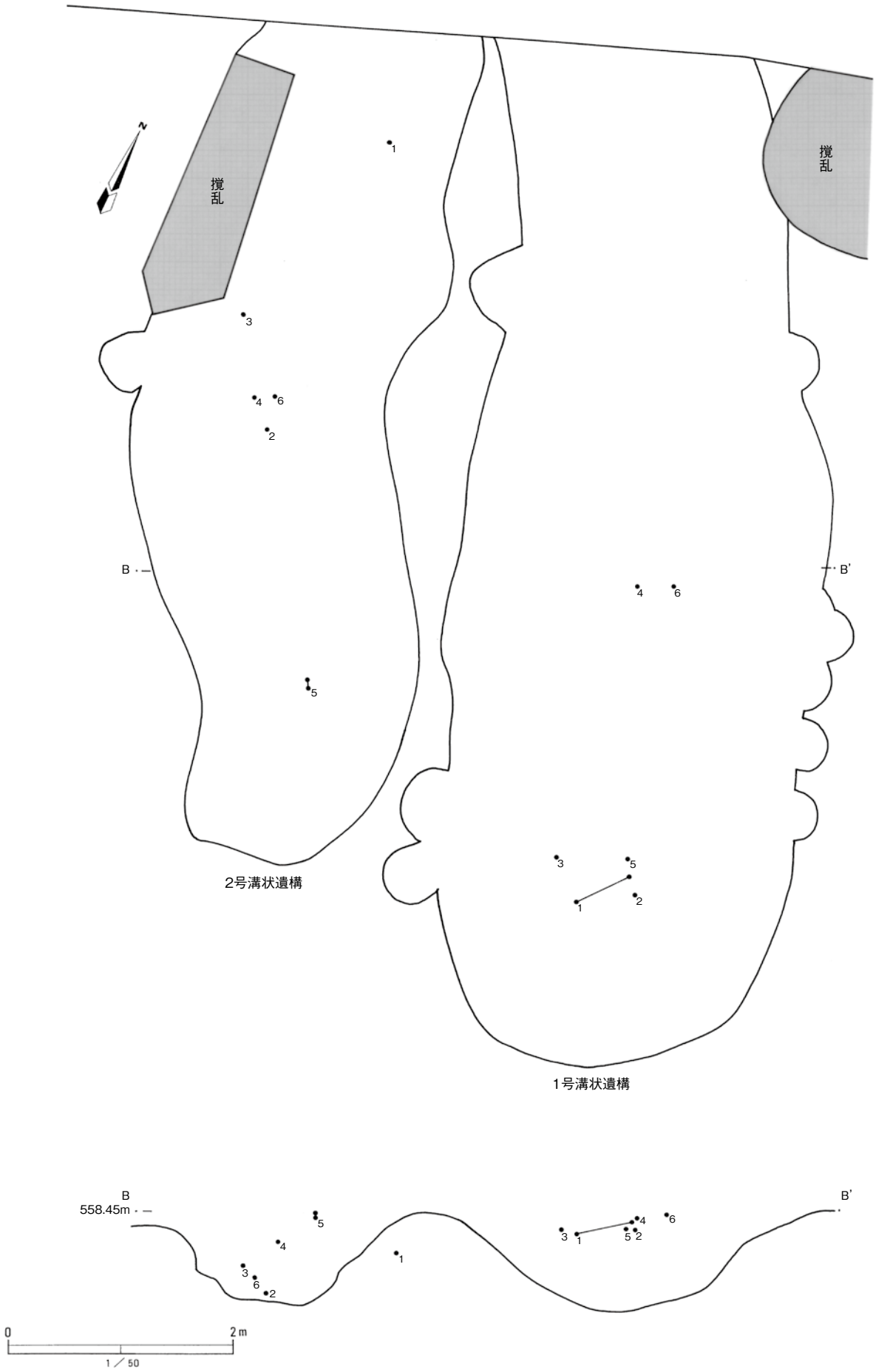
| 図版 | No. | 地点 | 種別・形状 | 時代 | 長/幅/厚（cm） | 重さ（g） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 7 | 2号溝状遺構 | 金属製品・棒状 | ― | 5.9/0.8/0.8 | 5 | 両端は欠損し、角棒状を呈す |



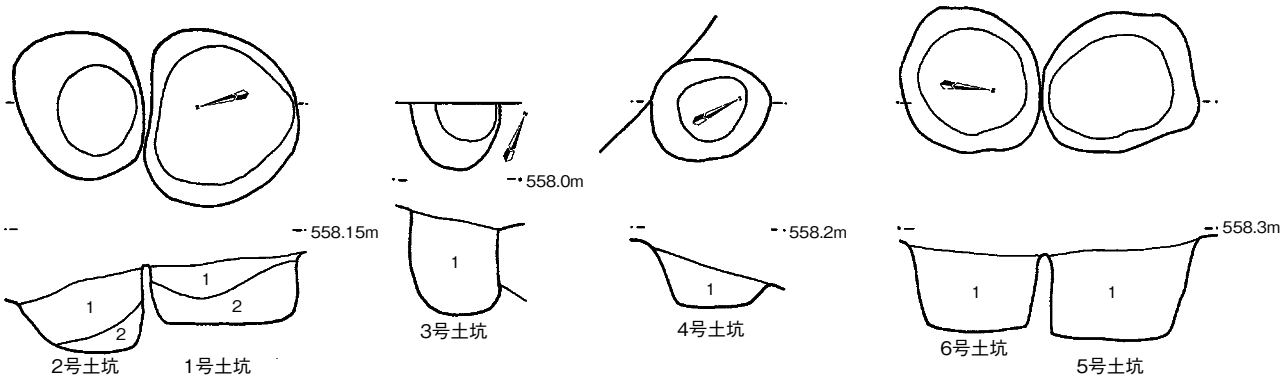

1号溝状遺構註記
1層　10YR2/2黒褐色土層　しまり、粘性有り。
　　1～5mm大の黄褐色粒子を混入。
2層　10YR4/3にぶい黄褐色土層　しまり有り。
3層　10YR3/2黒褐色土層　しまり、粘性有り。
4層　10YR2/3黒褐色土層　しまり、粘性有り。
　　1～2mm大の黄褐色、赤褐色粒子を混入。
5層　10YR3/2黒褐色土層　しまり極めて強い。粘性有り。
6層　10YR4/3暗褐色土層　しまり有り。
7層　10YR2/2黒褐色土層　しまり、粘性有り。
　　2～5mm大の黄褐色粒子を混入。

2号溝状遺構註記
1層　10YR3/2黒褐色砂礫層　しまり有り。
2層　10YR4/4褐色砂層　しまり無し。
3層　10YR3/2黒褐色砂層　しまり無し。
4層　10YR4/6褐色砂礫層　しまり無し。
5層　10YR4/6褐色砂層　しまり無し。
　　50～300mm大の礫混入。
6層　3号土坑覆土である。

**第４図　１・２号溝状遺構平・断面図**




第５図　１・２号溝状遺構遺物分布図




1号土坑註記
1層　10YR2/3黒褐色土層　しまり、粘性有り。
2～5mm大の黄褐色粒子を混入。
2層　10YR3/3暗褐色土層　しまり、粘性有り。
1～2mm大の黄褐色粒子を混入。

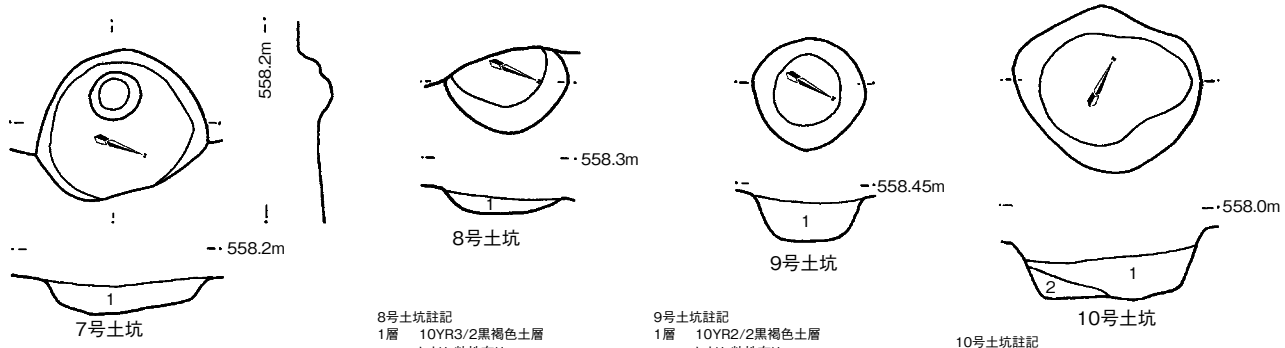
2号土坑註記
1層　10YR2/3黒褐色土層　しまり、粘性有り。
2～5mm大の黄褐色粒子を混入。
2層　10YR3/3暗褐色土層　しまり、粘性有り。

3号土坑註記
1層　10YR3/2黒褐色土層
しまり、粘性有り。
2～5mm大の黄褐色粒子を混入。

4号土坑註記
1層　10YR3/3暗褐色土層
しまり、粘性有り。
1～2mm大の黄褐色粒子を混入

5号土坑註記
1層　10YR2/2黒褐色土層　しまり、粘性有り。
5mm大の炭化物粒子、5～20mm大の黄褐色粒子を混入。

6号土坑註記
1層　10YR2/3黒褐色土層　しまり、粘性有り。
5mm大の炭化物粒子、5～20mm大の黄褐色粒子を混入。

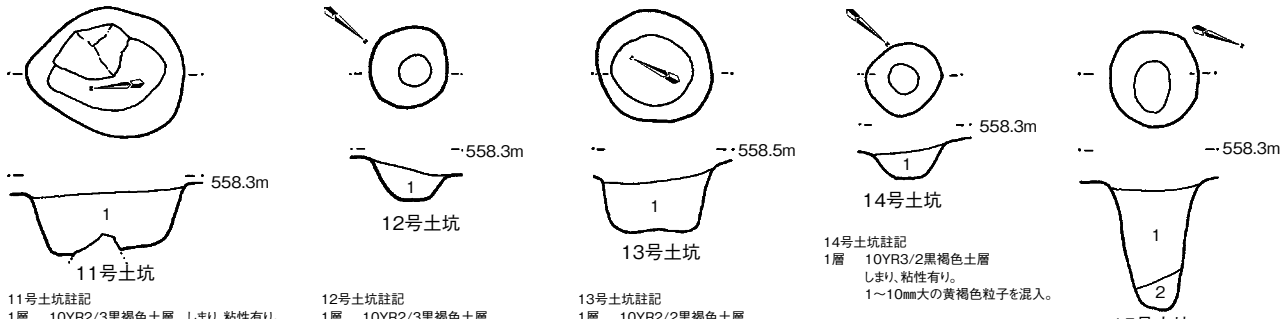



7号土坑註記
1層　10YR2/2黒褐色土層　しまり、粘性有り。
5mm大の炭化物粒子、2～10mm大の黄褐色粒子を混入。

8号土坑註記
1層　10YR3/2黒褐色土層
しまり、粘性有り。
5～10mm大の黄褐色粒子を混入。

9号土坑註記
1層　10YR2/2黒褐色土層
しまり、粘性有り。
1～10mm大の黄褐色粒子を混入。
5mm大の炭化物粒子を混入。

10号土坑註記
1層　10YR2/2黒褐色土層　しまり、粘性有り。
1～5mm大の黄褐色粒子を混入。
5mm大の炭化物粒子を混入。
2層　10YR3/3暗褐色土層　しまり、粘性有り。
1～5mm大の黄褐色粒子を混入。
5mm大の炭化物粒子を混入。



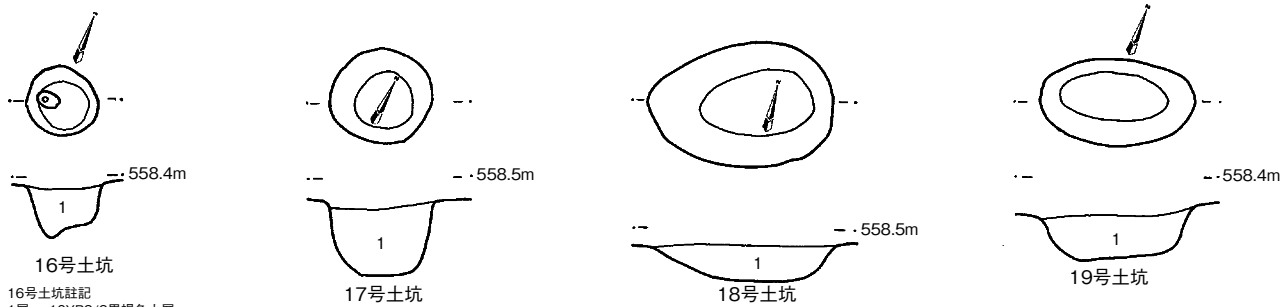

11号土坑註記
1層　10YR2/3黒褐色土層　しまり、粘性有り。
1～5mm大の黄褐色粒子を混入。5mm大の炭化物粒子を混入。
2層　10YR3/2黒褐色土層　しまり、粘性有り。
5～10mm大の黄褐色粒子を混入。

12号土坑註記
1層　10YR2/3黒褐色土層
しまり、粘性有り。
1～5mm大の黄褐色粒子を混入。

13号土坑註記
1層　10YR2/2黒褐色土層
しまり、粘性有り。
5～10mm大の黄褐色粒子を混入。

14号土坑註記
1層　10YR3/2黒褐色土層
しまり、粘性有り。
1～10mm大の黄褐色粒子を混入。

15号土坑註記
1層　10YR2/2黒褐色土層　しまり、粘性有り。
5～10mm大の黄褐色粒子を混入。
2層　10YR3/2黒褐色土層　しまり、粘性有り。
1～5mm大の黄褐色粒子を混入。




16号土坑註記
1層　10YR2/2黒褐色土層
しまり、粘性有り。
1～10mm大の黄褐色粒子を混入。

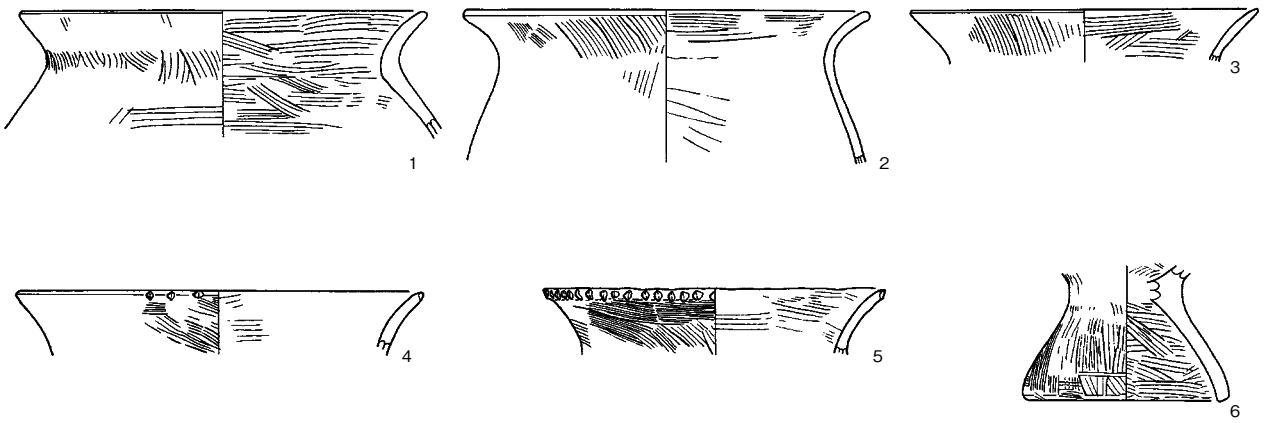
17号土坑註記
1層　10YR3/2黒褐色土層　しまり、粘性有り。
5～30mm大の黄褐色粒子を混入。
2層　10YR3/3暗褐色土層　しまり、粘性有り。
1～5mm大の黄褐色粒子を混入。

18号土坑註記
1層　10YR3/2黒褐色土層
しまり、粘性有り。
1～10mm大の黄褐色粒子を混入。

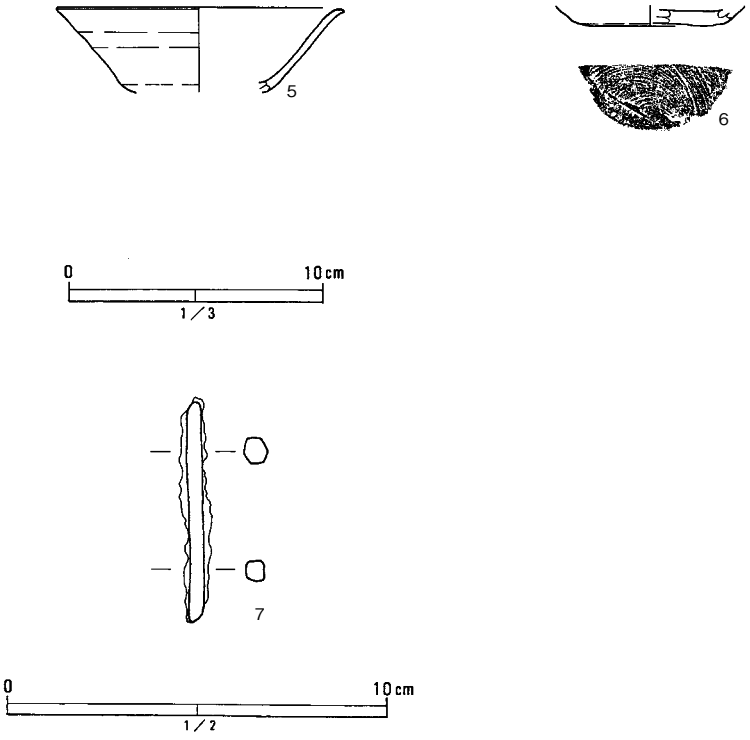
19号土坑註記
1層　10YR3/3暗褐色土層
しまり、粘性有り。
1～5mm大の黄褐色粒子を混入。

0　1m
1/30

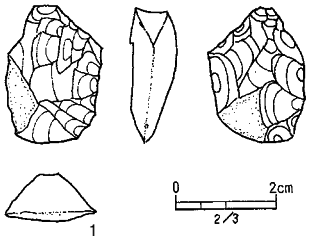
**第６図　土坑平・断面図**




1号溝状遺構出土遺物




2号溝状遺構出土遺物




10号土坑出土遺物

**第７図　遺構出土遺物**

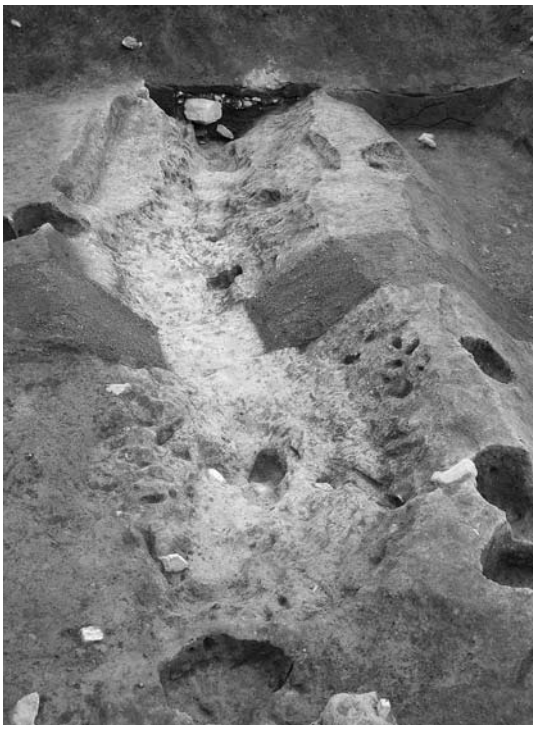
# 写 真 図 版

遺跡遠景　南から

図版１

六ツ長遺跡全景

１号溝状遺構全景（南から）

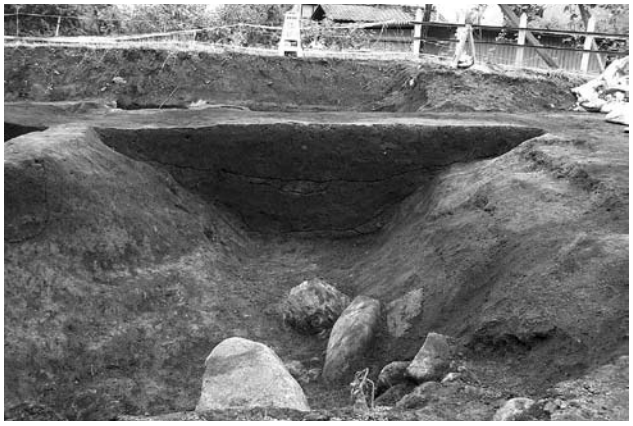


２号溝状遺構全景（南から）

図版２

１号溝状遺構調査区北側断面（南から）

２号溝状遺構調査区北側断面（南から）



１号溝状遺構断面（南から）

２号溝状遺構断面（南から）

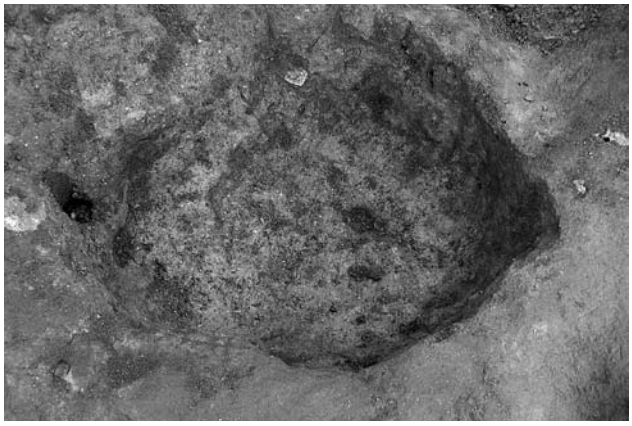
１号土坑（右）・2号土坑（左）

５号土坑（右）・６号土坑（左）

７号土坑

８号土坑

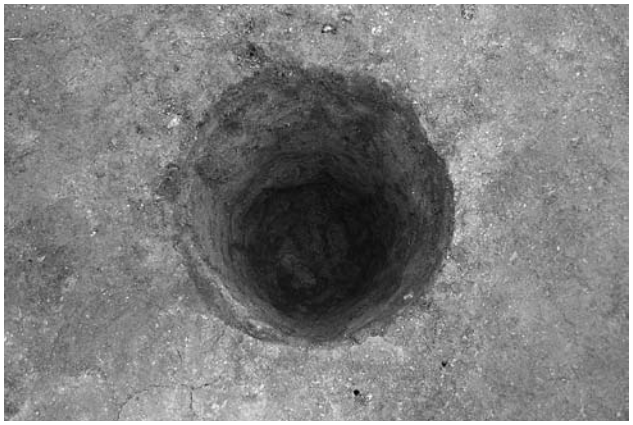
９号土坑



10号土坑

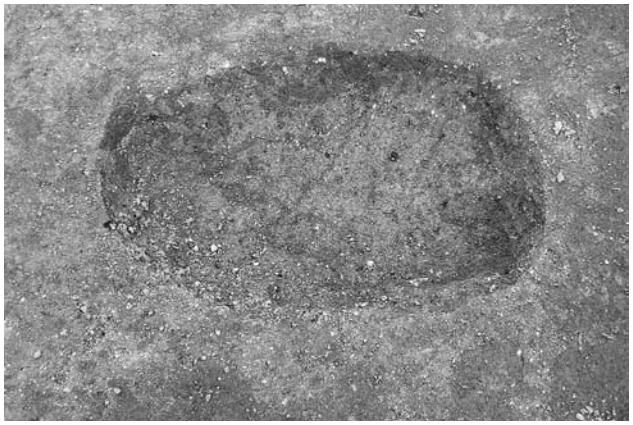
11号土坑

右から13・14・12号土坑



15号土坑

17号土坑



18号土坑

調査風景

図版４

1号溝状遺構出土遺物

２号溝状遺構出土遺物

２号溝状遺構出土金属製品

10号土坑出土石器

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | むつおさいせき |
| 書名 | 六ツ長遺跡 |
| 副題 | 山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第269集 |
| 著者名 | 三田村美彦 |
| 発行者 | 山梨県教育委員会、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 |
| 編集機関 | 山梨県埋蔵文化財センター |
| 所在地・電話 | 〒400－1508　山梨県甲府市下曽根町923　TEL 055－266－3016 |
| 発行年月日 | 2011年３月25日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| むつおさいせき | やまなしけん　ふえふきし　みさかちょう　かみくろこまちない | 19201 | 御坂107 | 35°<br>35′<br>56″ | 138°<br>42′<br>38″ | 20090611<br>～<br>20090716 | 260 | 山梨リニア実験線建設 |
| 六ツ長遺跡 | 山梨県笛吹市御坂町上黒駒地内 | | | | | | | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 六ツ長遺跡 | 集落跡 | 縄文・古墳・平安 | 溝状遺構・土坑 | 縄文土器・石器・土師器・金属製品 | 古墳時代前期と考えられる溝状遺構を検出。 |

| | |
|---|---|
| 要約 | 本遺跡の調査は、山梨リニア実験線建設に伴い実施された。遺跡は金川左岸の河岸段丘上に立地する。当該地域の様相は不明瞭であったが、古墳時代の溝状遺構１条、時期不明の溝状遺構１条や土坑19基などが検出され、新たな知見を得ることができた。 |


**山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第269集**

# 六　ツ　長　遺　跡

**山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書**

**印刷日　2011 年 3 月 10 日**
**発行日　2011 年 3 月 25 日**

編　集　山梨県埋蔵文化財センター
〒400－1508　山梨県甲府市下曽根町923
TEL　055－266－3016　FAX　055－266－3882
http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/index.html
発　行　山梨県教育委員会、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
印　刷　港北出版印刷株式会社